

[問]

昭和48年度 (問題)

午前の部

1. 災害発生率 q の災害保険がある。この保険の被保険者 n 人からなる群団があり、各被保険者の保険金は同額で、1とする。この群団全体の収支でみて、保険会社が損失を受ける確率が α ($0 < \alpha < 1$) であるような純保険料 P を、正規分布近似で求めよ。
2. t 時間の間に来る客の数 X が平均 $t\lambda$ のポアソン分布にしたがうとする。
 - (a) t 時間の間に x 人の来客を観測したとして、最尤法によって、 λ の推定量 $\hat{\lambda}$ を求めよ。
 - (b) 上で求めた $\hat{\lambda}$ の不偏性を証明せよ。
 - (c) 上で求めた $\hat{\lambda}$ について、次の式(クラメル・ラオの不等式に関連した式)が成り立つことを証明せよ。

$$\text{var } \hat{\lambda} = \frac{1}{E\left(\left(-\frac{\partial}{\partial \lambda} \log f(X, \lambda)\right)^2\right)}$$

ここに、 $f(x, \lambda) = P(X=x)$ とし、また、 E は期待値、 var は分散を表わす記号とする。

3. (a) 関数 $I(u, \alpha, \beta)$ を、

$$I(u, \alpha, \beta) = \frac{(\alpha + \beta + 1)!}{\alpha! \beta!} \int_0^u t^\alpha (1-t)^\beta dt$$

と定義すれば、 $0 < p < 1$, $q = 1 - p$ として、

$$\sum_{u=0}^n \binom{n}{u} p^u q^{n-u} = I(p, x-1, n-x)$$

$$\sum_{u=0}^x \binom{n}{u} p^u q^{n-u} = 1 - I(p, x, n-x-1)$$

が成立することを証明せよ。

- (b) 上の関数 $I(u, \alpha, \beta)$ の表(不完全ベータ関数表)が与えられているとする。

いま、不良率 p が未知な無限母集団から、大きさ n の標本(小標本)をとり出したときその中の不良品の個数を X とする。

[問]

- (b 1) 不良率 p が、どのような数値以下であれば、不良品の個数 X が x 個以上出る確率が 0.025 以下におさまるか、そのような数値 $p_1(x)$ を、与えられた $I(u, \alpha, \beta)$ の表から求める方法を示せ。
- (b 2) 不良率 p が、どのような数値以上であれば、不良品の個数 X が x 個以下しか出ない確率が 0.025 以下におさまるか、そのような数値 $p_2(x)$ を、同じく $I(u, \alpha, \beta)$ の表から求める方法を示せ。
- (c) 不良品の個数 X の実現値が x であるとき、不良率 p の最尤推定量を用いて、両側 0.025 点をとって作った p の信頼区間は、 $(p_1(x), p_2(x))$ となることを証明せよ。

午後の部

4. (a) 大きさ N の有限母集団 $\{a_1, a_2, \dots, a_N\}$ から、大きさ n の標本 X_1, X_2, \dots, X_n をとり出す。

$$\bar{X} = \frac{X_1 + \dots + X_n}{n}$$

とおいたとき、次の事項を証明せよ。

- (a 1) \bar{X} は母集団平均

$$\mu = \frac{a_1 + \dots + a_N}{N}$$

の不偏推定量である。

- (a 2) \bar{X} の分散は、次の式で与えられる。

$$\text{var } \bar{X} = \frac{N-n}{N-1} \frac{\sigma^2}{n}$$

ここに、 σ^2 は母集団分散

$$\sigma^2 = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N (a_i - \mu)^2$$

とする。

- (b) 大きさ N の有限母集団 π を、 L 個の層 (たがいに共通部分のない部分集団) $\pi_1, \pi_2, \dots, \pi_L$ に分割する。 π_i ($i = 1, \dots, L$) は、 N_i 個の元 $a_{i1}, a_{i2}, \dots, a_{iN_i}$ からなるとする。

[問]

層 π_i から大きさ n_i の標本

$$X_{i1}, X_{i2}, \dots, X_{in_i}$$

を抽出する。

$$\bar{X} = \sum_{i=1}^L \frac{N_i}{N} \cdot \frac{1}{n_i} \sum_{j=1}^{n_i} X_{ij}$$

とおくとき、次の事項が成り立つことを、上の(a)の結果を利用して証明せよ。

(b1) \bar{X} は母集団 π の平均 μ の不偏推定量である。

(b2) \bar{X} の分散は次の式で与えられる。

$$\text{var } \bar{X} = \sum_{i=1}^L \left(\frac{N_i}{N} \right)^2 \frac{N_i - n_i}{N_i - 1} \frac{\sigma_i^2}{n_i}$$

ここに、 σ_i^2 は、層 π_i の分散

$$\sigma_i^2 = \frac{1}{N_i} \sum_{j=1}^{N_i} (a_{ij} - \mu_i)^2$$

である。ただし、

$$\mu_i = \frac{1}{N_i} \sum_{j=1}^{N_i} a_{ij}$$

5. (a) 確率変数 X_1, X_2, \dots, X_n が、たがいに独立で、同じ分散 σ^2 をもつとし、 a_i, b_i ($i = 1, 2, \dots, n$) を定数とするとき

$$\text{cov} \left(\sum_{i=1}^n a_i X_i, \sum_{i=1}^n b_i X_i \right) = \sigma^2 \sum_{i=1}^n a_i b_i$$

が成り立つことを証明せよ。ここに cov は共分散 (Covariance) を表わす記号とする。

- (b) ある量 Y が、パラメーター x (確率変数ではない) の 1 次式

$$Y = \beta_0 + \beta_1 x + \varepsilon$$

で表わされるとする。ここに誤差項 ε は、 x の値に関係なく、つねに正規分布 $N(0, \sigma^2)$ にしたがうものとし、毎回の観測について独立とする。

パラメーター x の n 個の値

$$x_1, x_2, \dots, x_n$$

について、各 1 回ずつ観測した量 Y の値をそれぞれ

〔問〕

Y_1, Y_2, \dots, Y_n
とする。

このとき、回帰係数 β_0, β_1 は、最小自乗法によって、次の $\hat{\beta}_0, \hat{\beta}_1$ と推定される。
(これは証明しなくてもよい。)

$$\hat{\beta}_0 = \bar{Y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}$$

$$\hat{\beta}_1 = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(Y_i - \bar{Y})}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}$$

ここに、

$$\bar{Y} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n Y_i, \quad \bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$$

このとき、上の(a)の関係を利用して、次の等式を証明せよ。

$$\text{cov}(\hat{\beta}_0, \hat{\beta}_1) = \frac{-\sigma^2 \bar{x}}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}$$

昭和48年度 (解答)

午前の部

1. Xをこの群団からの災害発生件数とする。

Xは2項分布 $B(n, q)$ にしたがう。

$$\therefore EX = nq, \quad \text{var } X = n pq \quad (p = 1 - q \text{ とおいた。})$$

このことから $Y = \frac{X - nq}{\sqrt{n pq}}$ は mean 0, variance 1 であるので, n が大きいとき正規分布

$N(0, 1)$ で近似できる。

この群団からの利益は

$$nP - X$$

であるから,

$$\alpha = P(nP - X < 0) = (-)$$

ここで, $X = nq + \sqrt{n pq} Y$ を考えて,

$$(-) = P(nP - nq - \sqrt{n pq} Y < 0)$$

$$= P\left(Y > \frac{n(P - q)}{\sqrt{n pq}}\right)$$

$$= P\left(Y > \sqrt{\frac{n}{pq}} (P - q)\right)$$

正規分布表から, $\alpha = P(Y > x_\alpha)$ を満足する x_α を探せば,

$$\sqrt{\frac{n}{pq}} (P - q) = x_\alpha$$

$$P = q + \sqrt{\frac{pq}{n}} x_\alpha$$

2. (a) $P(X = x) = e^{-t\lambda} \frac{(t\lambda)^x}{x!}$

$$\log P(X = x) = -t\lambda + x(\log \lambda + \log t) - \log x!$$

$$\frac{\partial}{\partial \lambda} \log P(X = x) = -t + \frac{x}{\lambda}$$

これを0とおいて $\lambda = \frac{x}{t}$

$$\therefore \hat{\lambda} = \frac{x}{t}$$

$$(b) \ E \hat{\lambda} = E \frac{X}{t} = \frac{\lambda t}{t} = \lambda$$

$$(c) \ \text{var } \hat{\lambda} = \text{var } \frac{X}{t} = \frac{1}{t^2} \text{var } X = \frac{t \lambda}{t^2} = \frac{\lambda}{t}$$

$$f(x, \lambda) = P(X=x) = e^{-t\lambda} \frac{(t\lambda)^x}{x!}$$

(b)の結果から,

$$\frac{\partial}{\partial \lambda} f(x, \lambda) = -t + \frac{x}{\lambda}$$

$$\begin{aligned} E \left(\frac{\partial}{\partial \lambda} f(X, \lambda) \right)^2 &= E \left(-t + \frac{X}{\lambda} \right)^2 \\ &= \frac{1}{\lambda^2} E (X - \lambda t)^2 = (-) \end{aligned}$$

$E X = \lambda t$ だから

$$(-) = \frac{1}{\lambda^2} \text{var } X = \frac{\lambda t}{\lambda^2} = \frac{t}{\lambda}$$

3. (a) 部分積分によって,

$$\begin{aligned} I(u, \alpha, \beta) &= \frac{(\alpha + \beta + 1)!}{\alpha! \beta!} \left[\frac{t^{\alpha+1}}{\alpha+1} (1-t)^\beta \right]_0^u \\ &\quad + \frac{(\alpha + \beta + 1)!}{\alpha! \beta!} \frac{\beta}{\alpha+1} \int_0^u t^{\alpha+1} (1-t)^{\beta-1} dt \\ &= \frac{(\alpha + \beta + 1)!}{(\alpha+1)! \beta!} u^{\alpha+1} (1-u)^\beta \\ &\quad + \frac{(\alpha + \beta + 1)!}{(\alpha+1)! (\beta-1)!} \int_0^u t^{\alpha+1} (1-t)^{\beta-1} dt \\ &= \binom{\alpha + \beta + 1}{\alpha+1} u^{\alpha+1} (1-u)^\beta + I(u, \alpha+1, \beta-1) \end{aligned}$$

ここで, $u = p$, $\alpha+1 = v$, $\alpha + \beta + 1 = n$ とおくと,

$$I(p, v-1, n-v) = \binom{n}{v} p^v q^{n-v} + I(p, v, n-v-1)$$

$a_v = I(p, v-1, n-v)$ とおくと,

$$\binom{n}{v} p^v q^{n-v} = -a_{v+1} + a_v = -\Delta a_v$$

$$\begin{aligned} \therefore \sum_{u=x}^{n-1} \binom{n}{u} p^u q^{n-u} &= \left[-a_u \right]_x^n = a_x - a_n \\ a_n &= I(p, n-1, 0) = \frac{n!}{(n-1)! 0!} \int_0^p t^{n-1} dt \\ &= p^n \end{aligned}$$

$$\therefore \sum_{u=x}^n \binom{n}{u} p^u q^{n-u} = a_x = I(p, x-1, n-x)$$

次に,

$$\begin{aligned} \sum_{v=0}^x \binom{n}{v} p^v q^{n-v} &= 1 - \sum_{v=x+1}^n \binom{n}{v} p^v q^{n-v} \\ &= 1 - I(p, x, n-x-1) \end{aligned}$$

(b)

$$\begin{aligned} \text{(b1)} \quad P(X \geq x | p) &= \sum_{u=x}^n \binom{n}{u} p^u q^{n-u} \\ &= I(p, x-1, n-x) \leq 0.05 \end{aligned}$$

この不等式をみたす最大の p を表から求めればよい。

$$\text{(b2)} \quad \text{同様に, } 1 - I(p, x, n-x-1) \leq 0.05$$

$$\text{すなわち } I(p, x, n-x-1) \geq 0.95$$

これをみたす最小の p

$$\text{(c)} \quad P(X = x | p) = \binom{n}{x} p^x q^{n-x}$$

$$\log P(X = x | p) = \log \binom{n}{x} + x \log p + (n-x) \log(1-p)$$

$$\frac{\partial}{\partial p} \log P(X = x | p) = \frac{x}{p} - \frac{n-x}{1-p} = \frac{x-np}{p(1-p)}$$

$\therefore p$ の最尤推定量は $\frac{X}{n}$

$\frac{X}{n}$ の両側 $\frac{\epsilon}{2}$ 点により信頼区間を作るのには, $\frac{X}{n}$ のかわりに X を使っても同じことである。

X の上側棄却域は

$$A_1(p) = \{ x : P(X \geq x | p) \leq 0.025 \}$$

X の下側棄却域は

$$A_2(p) = \{ x : P(X \leq x | p) \leq 0.025 \}$$

X の実現値 x が与えられたとき, 求める信頼区間は, その x を棄却域にもっていくよう

な p の集合を、全区間 $[0, 1]$ から除いた区間、すなわち、 $[0, 1]$ から次の2つの区間を除いたものである。

$$B_1(x) = \{ p : x \in A_1(p) \}$$

$$B_2(x) = \{ p : x \in A_2(p) \}$$

ここで、

$$B_1(x) = \{ p : P(X \geq x | p) \leq 0.025 \} \\ = [0, p_1(x)]$$

$$B_2(x) = \{ p : P(X \leq x | p) \leq 0.025 \} \\ = [p_2(x), 1]$$

午後 の 部

4. (a) $(\sigma(1), \sigma(2), \dots, \sigma(n))$ を、 $\{1, 2, \dots, N\}$ からランダムにとった1つの順列とすると、 $(\sigma(1), \sigma(2), \dots, \sigma(n))$ は確率変数 (n 次元の) とみることができる。こうすると、

$$X_i = a_{\sigma(i)}$$

と解釈できる。 $P(N, n)$ を $\{1, 2, \dots, N\}$ から n 個とった順列の集合とする。

$$(a1) \quad E\bar{X} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n E X_i = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n E a_{\sigma(i)} = (-)$$

$$\text{ここで、} E a_{\sigma(i)} = \sum_{v=1}^N a_v P(\sigma(i)=v) = (*)$$

$\sigma(i)=v$ であるような $\sigma \in P(N, n)$ の数は、 $\{1, 2, \dots, N\}$ から v を除いた残りの $N-1$ 個から、 $\sigma(1), \sigma(2), \dots, \sigma(n)$ の中からすでにきまっている $\sigma(i)$ を除いた $n-1$ 個をとる順列の数 ${}_{N-1}P_{n-1}$ となる。

各1つの順列は、 $1/{}_N P_n$ の確率をもつから、

$$P(\sigma(i)=v) = {}_{N-1}P_{n-1} \div {}_N P_n \\ = \frac{(N-1) \cdots (N-n+1)}{N(N-1) \cdots (N-n+1)} = \frac{1}{N}$$

$$\therefore (*) = \frac{1}{N} \sum_{v=1}^N a_v = \mu$$

$$\therefore (-) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n \mu = \mu$$

$$(a2) \quad \tilde{a}_i = a_i - \mu$$

$$\tilde{X}_i = X_i - \mu$$

とおく。

$$\begin{aligned} n^2 \text{var } \bar{X} &= E \left(\sum_{i=1}^n \tilde{X}_i \right)^2 \\ &= E \left(\sum_{i=1}^n \tilde{X}_i^2 + \sum_{\substack{i \neq j \\ i, j \in \{1, 2, \dots, n\}}} \tilde{X}_i \tilde{X}_j \right) \\ &= \sum_{i=1}^n E \tilde{X}_i^2 + \sum_{\substack{i \neq j \\ i, j \in \{1, 2, \dots, n\}}} E (\tilde{X}_i \tilde{X}_j) = (-) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} E X_i &= E \tilde{a}_{\sigma(i)}^2 = \sum_{\nu=1}^N \tilde{a}_{\nu}^2 P(\sigma(i) = \nu) \\ &= \frac{1}{N} \sum \tilde{a}_{\nu}^2 = \sigma^2 \end{aligned}$$

$i \neq j$ のとき

$$\begin{aligned} E (\tilde{X}_i \tilde{X}_j) &= E (\tilde{a}_{\sigma(i)} \tilde{a}_{\sigma(j)}) \\ &= \sum_{\substack{r \neq s \\ r, s \in \{1, 2, \dots, N\}}} \tilde{a}_r \tilde{a}_s P((\sigma(i), \sigma(j)) = (r, s)) = (*) \end{aligned}$$

ここで、 $(\sigma(i), \sigma(j)) = (r, s)$ ($i \neq j, r \neq s$) となる順列 $\sigma \in P(N, n)$ の数は、 $\{1, 2, \dots, N\}$ から r, s を除いた $N-2$ 個から、 $\sigma(1), \sigma(2), \dots, \sigma(n)$ 中すでにきまっている $\sigma(i), \sigma(j)$ を除いた $n-2$ 個をとる順列の数 ${}_{N-2}P_{n-2}$ に等しい。

$$\therefore P((\sigma(i), \sigma(j)) = (r, s)) = {}_{N-2}P_{n-2} \div {}_N P_n = \frac{1}{N(N-1)}$$

$$\therefore (*) = \sum_{\substack{r \neq s \\ r, s \in \{1, 2, \dots, N\}}} \tilde{a}_r \tilde{a}_s \frac{1}{N(N-1)} = \frac{1}{N(N-1)} \left(\sum_{r=1}^N \sum_{s=1}^N \tilde{a}_r \tilde{a}_s - \sum_{r=1}^N \tilde{a}_r^2 \right)$$

$$= \frac{-1}{N(N-1)} \sum_{r=1}^N \tilde{a}_r^2 = -\frac{\sigma^2}{N-1}$$

$$\therefore (-) = \sum_{i=1}^n \sigma^2 + \sum_{\substack{i \neq j \\ i, j \in \{1, 2, \dots, n\}}} \frac{-\sigma^2}{N-1}$$

$$= n \sigma^2 - (n^2 - n) \frac{\sigma^2}{N-1}$$

$$\begin{aligned}
&= n \sigma^2 - n(n-1) \frac{\sigma^2}{N-1} \\
&= n \sigma^2 \left(1 - \frac{n-1}{N-1} \right) \\
&= n \sigma^2 \frac{N-n}{N-1} \\
\therefore \text{var } \tilde{X} &= \frac{N-n}{N-1} \frac{\sigma^2}{n}
\end{aligned}$$

(b)

$$\begin{aligned}
\bar{X}_i &= \frac{1}{n_i} \sum_{j=1}^{n_i} X_{ij} \\
\tilde{X}_i &= \frac{1}{n_i} \sum_{j=1}^{n_i} (X_{ij} - \mu_i)
\end{aligned}$$

とおく。\$X_1, X_2, \dots, X_L\$ はあきらかにたがいに独立。

そうすると、

$$\bar{X} = \sum \frac{N_i}{N} X_i$$

(b 1) $E \bar{X} = \sum \frac{N_i}{N} E X_i = \sum \frac{N_i}{N} \mu_i = \mu$

(b 2) $\text{var } \bar{X} = \sum \left(\frac{N_i}{N} \right)^2 \text{var } X_i$

(a)の結果から

$$\text{var } X_i = \frac{N_i - n_i}{N_i - 1} \frac{\sigma_i^2}{n_i}$$

5. (a) $\tilde{X}_i = X_i - E X_i$ とかくと、

$$\text{cov} \left(\sum a_i X_i, \sum b_j X_j \right) = E \left(\sum a_i \tilde{X}_i, \sum b_j \tilde{X}_j \right)$$

$$= \sum_{i,j} a_i b_j E(\tilde{X}_i \tilde{X}_j) = (\rightarrow)$$

\$i \neq j\$ なら、\$\tilde{X}_i, \tilde{X}_j\$ はたがいに独立だから、

$$E(\tilde{X}_i \tilde{X}_j) = E \tilde{X}_i \cdot E \tilde{X}_j = 0$$

$$(\rightarrow) = \sum a_i b_i E \tilde{X}_i^2 = \sum a_i b_i \text{var } \tilde{X}_i = \sum a_i b_i \sigma^2$$

(b) $\hat{\beta}_0, \hat{\beta}_1$ を Y_1, \dots, Y_n の一次結合の形に書きなおす。

$$S^2 = \sum (x_i - \bar{x})^2 \text{ とおくと,}$$

$$\begin{aligned} \hat{\beta}_1 &= \sum_{i=1}^n \frac{x_i - \bar{x}}{S^2} (Y_i - \bar{Y}) \\ &= \sum_{i=1}^n \frac{x_i - \bar{x}}{S^2} Y_i - \bar{Y} \sum_{i=1}^n \frac{x_i - \bar{x}}{S^2} \\ &= \sum_{i=1}^n \frac{x_i - \bar{x}}{S^2} Y_i \end{aligned}$$

$$\hat{\beta}_0 = \bar{Y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}$$

$$= \sum \frac{1}{n} Y_i - \sum \frac{\bar{x} (x_i - \bar{x})}{S^2} Y_i$$

$$= \sum \left\{ \frac{1}{n} - \frac{\bar{x} (x_i - \bar{x})}{S^2} \right\} Y_i$$

$$\begin{aligned} \therefore \text{cov}(\hat{\beta}_0, \hat{\beta}_1) &= \sigma^2 \sum \frac{x_i - \bar{x}}{S^2} \left\{ \frac{1}{n} - \frac{\bar{x} (x_i - \bar{x})}{S^2} \right\} \\ &= \frac{\sigma^2}{S^2} \left\{ \sum (x_i - \bar{x}) - \frac{\bar{x}}{S^2} \sum (x_i - \bar{x})^2 \right\} \\ &= \frac{\sigma^2}{S^2} \left\{ -\frac{\bar{x}}{S^2} S^2 \right\} \\ &= \frac{-\sigma^2 \bar{x}}{S^2} \end{aligned}$$

[参考]

一般に, $X\check{\beta} = \check{y}$ から, 最小自乗法で $\check{\beta}$ を求めるには,

$$X'X\check{\beta} = X'\check{y}$$

を解けばよい (記号を含めて47年解答集 p 49 参照)。

$$\therefore \check{\beta} = (X'X)^{-1} X'\check{y}$$

上の \check{y} のかわりに誤差 $\check{\varepsilon}$ を考えて, $\check{y} + \check{\varepsilon}$ を入れると, $\check{\beta}$ は

$$\check{\beta} = (X'X)^{-1} X'(\check{y} + \check{\varepsilon})$$

とかけ、確率変数となる ($\check{\varepsilon}$ が確率変数だから)。

$$E \check{\varepsilon} = 0 \text{ だから}$$

$$E \check{\beta} = (X'X)^{-1} X' \check{y}$$

$$\therefore \check{\beta} - E \check{\beta} = (X'X)^{-1} X' \check{\varepsilon} \quad \dots\dots(1)$$

$(\check{\beta} - E \check{\beta}) (\check{\beta} - E \check{\beta})'$ は $(\beta_i - E \beta_i) (\beta_j - E \beta_j)$ を (i, j) の要素とする行列になる。

$\therefore E ((\check{\beta} - E \check{\beta}) (\check{\beta} - E \check{\beta})')$ は, $\text{cov}(\beta_i, \beta_j)$ を (i, j) の要素とする行列になる。

(1)から

$$\begin{aligned} E ((\check{\beta} - E \check{\beta}) (\check{\beta} - E \check{\beta})') &= E ((X'X)^{-1} X' \check{\varepsilon} \check{\varepsilon}' X (X'X)^{-1}) \\ &= (X'X)^{-1} X' E (\check{\varepsilon} \check{\varepsilon}') X (X'X)^{-1} = (-) \end{aligned}$$

$\varepsilon_1, \varepsilon_2, \dots, \varepsilon_n$ がたがいに独立で $N(0, \sigma^2)$ にしたがえば,

$$E (\check{\varepsilon} \check{\varepsilon}') = \begin{pmatrix} \sigma^2 & 0 \\ & \ddots \\ 0 & & \sigma^2 \end{pmatrix} = \sigma^2 I$$

(I は単位行列)

$$\begin{aligned} \therefore (-) &= (X'X)^{-1} X' (\sigma^2 I) X (X'X)^{-1} \\ &= \sigma^2 (X'X)^{-1} X' X (X'X)^{-1} \\ &= \sigma^2 (X'X)^{-1} \end{aligned}$$

すなわち, $\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_n$ の covariance からなる matrix は, $\sigma^2 (X'X)^{-1}$ となる。

この問題では, $X = \begin{pmatrix} 1 & x_1 \\ \vdots & \vdots \\ 1 & x_n \end{pmatrix}$ だから

$$X'X = \begin{pmatrix} n & n\bar{x} \\ n\bar{x} & n(S^2 + \bar{x}^2) \end{pmatrix} = n \begin{pmatrix} 1 & \bar{x} \\ \bar{x} & S^2 + \bar{x}^2 \end{pmatrix}$$

ここに, $\bar{x} = \frac{1}{n} \sum x_i, S^2 = \frac{1}{n} \sum (x_i - \bar{x})^2$

(上の 2 行 2 列の要素について説明を加えると,

$$\begin{aligned} \text{これは} &= \sum x_i = \sum ((x_i - \bar{x}) + \bar{x})^2 \\ &= \sum (x_i - \bar{x})^2 + n\bar{x}^2 + 2\sum \bar{x} (x_i - \bar{x}) \\ &= nS^2 + n\bar{x}^2 = n(S^2 + \bar{x}^2) \end{aligned}$$

$$\begin{vmatrix} 1 & \bar{x} \\ \bar{x} & S^2 + \bar{x}^2 \end{vmatrix} = S^2 \text{ だから,}$$

$$(\mathbf{X}'\mathbf{X})^{-1} = \frac{1}{n} \begin{pmatrix} \frac{S^2 + \bar{x}^2}{S^2} & \frac{-\bar{x}}{S^2} \\ \frac{-\bar{x}}{S^2} & \frac{1}{S^2} \end{pmatrix}$$

$$\therefore \text{cov}(\beta_0, \beta_1) = \frac{-\bar{x}}{n S^2} \sigma^2$$

ついでに、

$$\text{var } \beta_0 = \frac{S^2 + \bar{x}^2}{n S^2} \sigma^2$$

$$\text{var } \beta_1 = \frac{1}{n S^2} \sigma^2$$